



高校における学習習慣と大学での諸活動の関連性：
2021年度実施大阪市立大学学生調査データを用いた
探索的分析（報告論文）

メタデータ	言語: ja 出版者: 大阪公立大学 高等教育研究開発センター 公開日: 2024-04-26 キーワード (Ja): 学習習慣, 高大接続, 調査分析 キーワード (En): Learning Habit, Transition from High Schools to Universities, Survey Analysis 作成者: 平, 知宏 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24729/0002000684

■ 報告論文

高校における学習習慣と大学での諸活動の関連性： 2021年度実施大阪市立大学学生調査データを用いた探索的分析

Relationship Between Learning Habits in High School and University Activities:
Exploratory Analysis Using 2021 Student Survey Data

平 知 宏

大阪公立大学・国際基幹教育機構／高等教育研究開発センター

TAIRA Tomohiro

Osaka Metropolitan University, Center for Research and Development of Higher Education

キーワード：学習習慣、高大接続、調査分析

Keywords: Learning Habit, Transition from High Schools to Universities, Survey Analysis

抄録

本報告では、2021年度実施大阪市立大学学生調査データを用いて、高校までの学習習慣と大学での授業選択などの学習嗜好や実際の学修に関わる行動との関連性について、探索的に分析を行った。分析の結果、回答学年ごとに高校までの学修経験自体の大きな違いは見られなかった一方で、高校までの学習経験と一部連動する形で大学での科目履修の嗜好性との間に関連性が見いだされることが示された。一方で、高校までの学習経験と大学での学修に関する活動との間には関連性が見いだされなかった。これらの結果を踏まえて、学生の内的状況と実際の行動との関係性を整理した上で、高校までと大学での環境的差異を考慮した調査研究として発展させるべき点を整理していくこととする。

1. はじめに

1.1. 学修成果に影響を与える要因の整理

学生自身が大学でのカリキュラムへと参入し、その後何らかの学修成果を示す過程に注目した時、その学修成果が何によってもたらされるのか、様々な視点からの検討が必要となる。学修成果自体が、単純なGPA等をはじめとする数的データとして示されるものに限らず（佐々木他, 2022; 平・大久保, 2018）、学生自身の学修に関わる能力の自己評価や（西垣, 2008）、大学での学修に関わるような態度形成そのもの（畑野・溝上, 2013）などの多様な指標を用いる傾向もあるが、これらの多様さを支えるようにそれらに影響を与える要因としては様々なものが想定される。

学修成果へ影響を与える要因としては、大きく2つの視点が想定される。1つは、大学入学時点、もしくはそれに近接する時点である入試成績や高校卒業時点

等の学力面での要因である。大学側はアドミッションポリシーをはじめとする当該大学の指針のもと、入学を希望する生徒に対して一定以上の学力を求める。学力面での保証は、その後の大学でのカリキュラムにおいてスムーズな学修を進行させるために必要となるものである。こうした要因は、大学の学修に関わる知能・資質に類するものと考えられるが、入学者選抜試験を通過した学生のみが入学するという構造上、常に一定以上の学力水準を持った学生のみを対象とした検討となることから、必ずしも明確な要因として検出可能なものとは限らず、高等教育の文脈においては入学者選抜試験の形態との関連性、すなわち当該大学における選抜方法の妥当性検証の一環として、例えば入学後の1年前期GPAとの関連を見るなど、大学入学後の初期段階での大学への適合を検討するなどの議論が多く行われている点が特徴である（例として、吉村・南部, 2008）。

1つ目の観点を支えるように、2つ目の観点は個々の学生自身が有する要因として、内的・心理的要因などが議論の対象となる。これらは学生個人に内包される一貫した性格や行動傾向をはじめとするものであり、学修に対する勤勉さや積極的関与、およびそれらを動機づけとする学修行動一般にかかわるものである。これは例えば勤勉な学生であれば大学での学修行動（クオリティの高い課題の提出、情報・文献等の積極的探索など）を積極的にいき、結果として高い学修成果を得ることができるといった考え方である。通常1つ目の観点到該当するような学力面の要因は、学生本人の学習履歴、傾向性によるものが大きく、内的・心理的要因、例えば学習のために努力する個性や知的好奇心といったものからの影響の結果として知識・知能といった学力面の要因が形成されると考えることが可能であり、学生の行動結果としての学修成果を説明する強い要因の1つとしてとらえることが可能である（Stumm, Hell, & Chamorro-Premuzic, 2011）。一方で、内的・心理的要因は必ずしも人間個人の問題として成立するものではなく、環境に対し適応的なふるまいをするための機構としてとらえることも可能である。この場合、学生が大学で学習を行うという行動自体が、学生本人の内的状況に対し、環境的な要因が行動そのものを許容している状態にあると解釈することが可能である。当然のことながら、内的状況と環境的な要因とに齟齬が発生している、いわゆる「不適応」な状態となっているのであれば、学修含めた学生の行動に支障が生じることが予想される。

こうして考えた場合、大学へ入学して学習を行い一定の成果を産出する学生の一連の行動プロセス自体が1つの独立した環境で行われているものであり、特に高校までのそれらとは異なることを意識する必要がある。例えば高校での「総合的な学習の時間」や「探求学習」といった比較的新たな教育の形態は、大学での学修への接続をスムーズにすることが意図されたものと見られる一方で、実際は高校現場の裁量により多様化かつ統一的な指針のもと展開されるものとは限らず、大学での学修との接続が評価しにくいことも考えられる（例として 中村, 2015）。それらに限らず、高校と大学では学習方略や生活環境的な変化も大きく、学生

自身がその環境に適応できるかどうかという問題を改めて考える必要があるだろう。

本報告ではこれら問題を踏まえ、2021年度大阪市立大学学生調査により得られたデータに基づき、特に高校までの学習に関わる各種経験が、大学入学以降の学修に関わる諸活動とどう関わりうるかを議論する目的で、両者に関わるデータ間の関係性を検討していくことを目的とする。同時に、大学での学修とそれに伴う成果を議論する上では、入学直後の1年生から、ある程度環境適応を完了したと考えられる4年生までの流れを想定する必要がある、本報告ではそうした観点の分析も加えつつ、今後調査研究として検討すべき個々の問題点を洗い出していくこととする。

2. 方法

2.1. 調査概要

本報告のデータ分析は、2021年10月から1月に大阪市立大学で実施された、「2021年度大阪市立大学：学士課程調査」に基づく調査によるものである。当該調査は、大阪市立大学における教育カリキュラム評価と改善のための教育評価計画に基づいた全学調査のうち、機関別認証評価の根拠データとして、また新大学（大阪公立大学）をはじめとした教育への還元のためのデータとして活用されることを目的として実施されたものである。調査はWebアンケートシステム（Limesurvey）を用いて行われ、当該年度に大阪市立大学に在籍していた1年生から4年生までの全学部学生を対象として実施された（有効回答数1230件、回答率18.9%）。

2.2. 調査項目

調査項目は、過去に行われた内容に準拠・対応して行われた追加調査の位置づけとなっているものであり（西垣, 2019）、回答者の属性をはじめとして大学での生活・学修全般、将来の進路などについて幅広く尋ねるものであった。また調査実施時期の前後特有の問題として、COVID-19禍対応に伴う大学での遠隔授業について尋ねる項目が新規に追加された。本報告ではこれらの調査項目のうち、(A)「高校3年次の学修経験」を尋ねる質問群15項目、(B)「大学に入学してからの学修状況：履修希望と実際の履修」を尋ねる質問群12

項目、(C)「大学に入学してからの学修状況：学修に関する活動」を尋ねる13項目を分析対象とした(表1)。

表1 本報告で注目した質問項目一覧と回答方式

A. 高校3年次の学修経験

(多肢選択式 4: ひんぱんにした 3: ときどきした
2: あまりしなかった 1: まったくしなかった)

ID (質問本文)
A1 授業中に質問した
A2 自分の意見を論理的に主張した
A3 問題の解決方法を探し、それを他の人に説明した
A4 科学的研究の記事や論文を読んだ
A5 インターネット上の情報が事実かどうか確認した
A6 授業の予習や復習、宿題をした
A7 授業以外に興味のあることを自分で勉強した
A8 自分の失敗から学んだ
A9 困難なことにあえて挑戦した
A10 自分が取り組んだ課題について教師に意見を求めた
A11 読書をした(マンガ・雑誌を除く)
A12 学校や地域の図書館を利用し、調べ物をした
A13 調べたことを文章にまとめた
A14 *オンラインでのオンデマンド型(教材や動画閲覧など)の授業に参加した
A15 *オンラインでの双方向型(ディスカッションなど)の授業に参加した

(*)は大学での遠隔授業について尋ねる項目として2021年度調査で新規追加されたもの

B. 大学に入学してからの学修状況：履修希望と実際の履修

(2択 希望：履修したかった／履修したくなかった
実際：履修した／履修しなかった)

ID (質問本文)
B1 実験、実習、調査、フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ授業
B2 仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ授業
B3 学んでいる内容で将来のかかわりについて考えられる授業
B4 グループワークなどの協同作業をする授業
B5 学生自身が文献や資料を調べる授業
B6 定期的に小テストやレポートが課される授業
B7 学生が自分の考えや研究を発表する授業
B8 授業中に学生同士が議論をする授業
B9 授業の進め方に学生の意見が取り入れられる授業
B10 出席することが重視される授業
B11 TAなどの授業補助者から補助を受ける授業
B12 語学以外の授業で、外国語で行われる授業

C. 大学に入学してからの学修状況：学修に関する活動(多肢選択式 4: ひんぱんにした 3: ときどきした
2: あまりしなかった 1: まったくしなかった)

ID (質問本文)
C1 授業課題のために図書館の紙媒体の資料を利用した(閲覧、貸出、取り寄せなど)
C2 授業課題のために図書館の電子媒体の資料を利用した(電子ジャーナル、電子ブック、文献データベースなど)
C3 図書館の学習スペースを利用した
C4 授業課題のために、授業で示されていたものとは異なるWeb上の情報を利用した
C5 提出期限までに授業課題を完成できなかった
C6 授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容を話したりした
C7 授業にて、教員の考え方や意見に異議を唱えた
C8 授業をつまらなく感じた
C9 大学の教職員に学習に関する相談をしたり、学内の学習支援制度を利用したりした
C10 大学の教職員に将来のキャリアや就職の相談をした
C11 大学の教員に親近感を感じた
C12 大学の職員に親近感を感じた
C13 TAなどの授業補助者、学習サポーターから支援を受けた

3. 結果

3.1. 回答学年ごとの、高校3年次の学修経験の傾向

有効回答数について、調査回答者の学年の内訳は、1年生469件、2年生318件、3年生232件、4年生159件であった。それぞれの学年ごとの高校3年次の学修経験の傾向は、表2に示す。

全体的な傾向として、高校3年次の学修経験の内容の回答傾向については1年生から4年生まで大きな違いは見られなかった。このうち、「A6：授業の予習や復習、宿題をした」「A8：自分の失敗から学んだ」などの高校カリキュラム内で要求されたり、学修上で必ず行わなければならないかたたりするような項目については、他の項目に比べると比較的高い水準(79%以上)で「ひんぱんにした」「ときどきした」と回答されていることが示された。また専門知識を要するような「A4：科学的研究の記事や論文を読んだ」については、「まったくしたことがない」「あまりしたことがない」との回答が多くを占めていた(69%以上)。一方で、「A2：自分の意見を論理的に主張した」「A7：授業以

表2 回答学年ごとの、高校3年次の学修経験の傾向（学年ごとに各質問項目で最も選択頻度が高かったものを網掛け）

(1年)	A1	A2	A3	A4	A5	A6	A7	A8	A9	A10	A11	A12	A13	A14	A15	
まったくしたことがない	26.4%	11.3%	6.6%	36.0%	6.2%	4.1%	11.1%	1.7%	4.9%	12.4%	21.5%	34.8%	23.2%	33.0%	60.3%	
あまりしたことがない	37.1%	39.0%	25.8%	33.0%	25.4%	11.5%	30.9%	7.2%	25.8%	31.1%	28.8%	31.8%	30.5%	20.3%	16.6%	
ときどきした	26.4%	36.0%	46.9%	19.6%	42.2%	24.7%	30.9%	49.9%	42.9%	35.6%	24.7%	19.2%	26.9%	24.5%	9.4%	
ひんぱんにした	6.2%	9.0%	15.6%	6.6%	21.3%	55.0%	22.6%	36.9%	21.5%	15.8%	20.7%	9.6%	14.7%	15.4%	6.0%	
(無回答)	3.8%	4.7%	5.1%	4.7%	4.9%	4.7%	4.5%	4.3%	4.9%	5.1%	4.3%	4.7%	4.7%	6.8%	7.7%	
(2年)																
まったくしたことがない	20.1%	13.2%	10.1%	40.6%	9.1%	4.1%	7.9%	0.9%	4.7%	16.7%	14.5%	27.7%	25.2%	66.7%	78.6%	
あまりしたことがない	34.9%	36.5%	26.1%	33.6%	21.7%	9.7%	28.6%	11.3%	27.4%	31.4%	29.6%	37.7%	31.8%	13.2%	10.1%	
ときどきした	32.4%	35.2%	44.7%	14.8%	39.6%	24.5%	33.6%	40.6%	34.9%	28.3%	28.6%	18.6%	28.3%	6.9%	2.2%	
ひんぱんにした	6.9%	9.4%	13.5%	5.0%	23.3%	56.3%	23.9%	41.2%	26.7%	17.3%	21.7%	9.4%	8.8%	6.0%	2.2%	
(無回答)	5.7%	5.7%	5.7%	6.0%	6.3%	5.3%	6.0%	6.0%	6.3%	6.3%	5.7%	6.6%	6.0%	7.2%	6.9%	
(3年)																
まったくしたことがない	27.2%	17.7%	12.1%	51.7%	10.3%	3.0%	13.4%	3.9%	6.9%	19.4%	17.7%	28.4%	23.3%	69.0%	75.9%	
あまりしたことがない	35.8%	34.5%	29.3%	20.3%	23.7%	9.1%	25.4%	11.2%	28.4%	28.0%	19.0%	30.6%	29.7%	9.9%	10.8%	
ときどきした	22.8%	31.9%	35.8%	15.9%	31.9%	22.0%	34.1%	37.9%	34.9%	26.7%	32.8%	22.4%	25.4%	6.0%	3.9%	
ひんぱんにした	8.6%	9.9%	16.8%	6.0%	25.4%	59.9%	20.7%	40.1%	22.8%	19.4%	24.1%	11.6%	15.1%	6.9%	2.6%	
(無回答)	5.6%	6.0%	6.0%	6.0%	8.6%	6.0%	6.5%	6.9%	6.9%	6.5%	6.5%	6.9%	6.5%	8.2%	6.9%	
(4年)																
まったくしたことがない	25.8%	8.8%	6.9%	45.3%	6.3%	3.8%	10.7%	3.8%	4.4%	14.5%	11.9%	27.0%	21.4%	62.3%	79.9%	
あまりしたことがない	44.0%	44.7%	29.6%	35.2%	22.6%	9.4%	33.3%	10.7%	28.3%	30.8%	25.8%	37.1%	32.1%	15.7%	13.2%	
ときどきした	17.6%	34.0%	47.8%	13.2%	47.2%	22.0%	38.4%	52.8%	40.3%	29.6%	35.2%	20.1%	31.4%	11.9%	1.3%	
ひんぱんにした	8.8%	8.8%	11.3%	1.3%	20.1%	61.0%	13.8%	28.3%	23.3%	20.8%	22.6%	11.9%	11.3%	6.3%	1.9%	
(無回答)	3.8%	3.8%	4.4%	5.0%	3.8%	3.8%	3.8%	4.4%	3.8%	4.4%	4.4%	3.8%	3.8%	3.8%	3.8%	

外に興味のあることを自分で勉強した」「A10：自分が取り組んだ課題について教師に意見を求めた」など、発信や能動的学修と関わるような項目については、「あまりしたことがない」と「ときどきした」を境に回答が割れる傾向にあることが示された。

なお、学年により傾向の違いがみられる内容としては、コロナ禍対応としての授業形式に関する項目である「A14：オンラインでのオンデマンド型（教材や動画閲覧など）の授業に参加した」であり、2-4年生では75%以上の回答が「まったくしたことがない」「あまりしたことがない」であったのに対し、1年生ではそれらの反応が53%程度であった。一方で同じコロナ禍対応の授業形式に関わる「A15：オンラインでの双方向型（ディスカッションなど）の授業に参加した」については、1年生において「ひんぱんにした」「ときどきした」と回答する割合が高くなっているが（15%程度）、学年によらず「まったくしたことがない」「あまりしたことがない」の割合が最も高く（75%以上）、オンラインでのディスカッション形式の授業が高校3

年次において少なかったことが示されている。これらは大学1年次の学生は、高校3年（2020年）時点において、コロナ禍の影響から、オンラインでの授業運営がベースとなるが多かったことから、上級生に比べて経験が多くなることも示唆している可能性がある。一方でこうした経験自体が、2年生以降の学習、特にオンライン授業を中心とした学習に対する「慣れ」のようなことにどうつながるかについては、今後の要検討課題となるだろう。

3.2. 高校3年次の学修経験と諸活動との関連性

高校3年次の学修経験（A）と、特に入学してからの学修状況における履修希望科目（B）の関係について、表3に示した。これは、経験の違いにより、実際に大学で開講される授業の形態に対する選好の違いがみられるかを確認するためのものである。本分析では履修希望科目に対する【履修したかった/履修しなかった】の回答ごとに、学修経験の選択肢（4：ひんぱんにした 3：ときどきした 2：あまりしなかった 1：

まったくしなかった)を数値データとして扱った上で、その平均値を示した。

表3 高校3年次の学修経験の傾向と、大学に入学しからの学修状況：履修希望との関係

※学修経験の平均値に対し、全体/1年生のみの各授業【履修したかった】【履修したくなかった】群の高い数値に網掛け

	B01 実験、実習、調査、フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ授業(全学年/1年生)			
	履修したかった		履修したくなかった	
	全体	1年生のみ	全体	1年生のみ
A1.	2.19	2.16	2.07	1.99
A2.	2.47	2.48	2.30	2.31
A3.	2.70	2.79	2.57	2.62
A4.	1.85	1.98	1.79	1.89
A5.	2.83	2.82	2.78	2.80
A6.	3.41	3.35	3.38	3.38
A7.	2.70	2.73	2.65	2.59
A8.	3.30	3.31	3.17	3.21
A9.	2.91	2.92	2.71	2.72
A10.	2.60	2.66	2.42	2.40
A11.	2.61	2.47	2.49	2.42
A12.	2.13	2.06	1.97	1.95
A13.	2.32	2.35	2.23	2.29
A14.	1.82	2.26	1.76	2.17
A15.	1.39	1.56	1.34	1.56

	B02 仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ授業			
	履修したかった		履修したくなかった	
	全体	1年生のみ	全体	1年生のみ
A1.	2.18	2.14	1.92	1.86
A2.	2.45	2.48	2.22	2.12
A3.	2.71	2.80	2.34	2.29
A4.	1.85	1.98	1.67	1.72
A5.	2.83	2.85	2.63	2.65
A6.	3.42	3.38	3.18	3.27
A7.	2.71	2.70	2.53	2.52
A8.	3.30	3.31	2.99	3.07
A9.	2.90	2.90	2.52	2.55
A10.	2.59	2.63	2.08	2.00
A11.	2.59	2.52	2.44	1.93
A12.	2.12	2.06	1.80	1.81
A13.	2.33	2.37	2.00	2.10
A14.	1.83	2.24	1.64	2.20
A15.	1.39	1.56	1.31	1.59

	B03 学んでいる内容と将来のかかわりについて考えられる授業			
	履修したかった		履修したくなかった	
	全体	1年生のみ	全体	1年生のみ
A1.	2.17	2.12	1.93	1.95
A2.	2.44	2.45	2.24	2.23
A3.	2.69	2.77	2.38	2.46
A4.	1.85	1.98	1.66	1.84
A5.	2.83	2.85	2.58	2.59

A6.	3.45	3.42	2.98	2.89
A7.	2.71	2.70	2.51	2.49
A8.	3.30	3.32	2.90	2.95
A9.	2.91	2.90	2.46	2.59
A10.	2.58	2.61	2.10	2.15
A11.	2.59	2.50	2.34	2.10
A12.	2.13	2.07	1.72	1.69
A13.	2.32	2.34	2.14	2.38
A14.	1.81	2.26	1.70	2.11
A15.	1.38	1.56	1.35	1.55

	B04 グループワークなどの協同作業をする授業			
	履修したかった		履修したくなかった	
	全体	1年生のみ	全体	1年生のみ
A1.	2.27	2.26	1.99	1.87
A2.	2.54	2.58	2.26	2.19
A3.	2.77	2.85	2.53	2.54
A4.	1.91	2.05	1.76	1.87
A5.	2.83	2.87	2.80	2.77
A6.	3.46	3.44	3.34	3.27
A7.	2.73	2.75	2.66	2.57
A8.	3.32	3.32	3.20	3.23
A9.	3.00	3.02	2.67	2.62
A10.	2.67	2.69	2.40	2.40
A11.	2.64	2.52	2.50	2.37
A12.	2.20	2.16	1.93	1.84
A13.	2.41	2.45	2.16	2.17
A14.	1.84	2.27	1.73	2.18
A15.	1.43	1.61	1.30	1.49

	B05 学生自身が文献や資料を調べる授業			
	履修したかった		履修したくなかった	
	全体	1年生のみ	全体	1年生のみ
A1.	2.23	2.19	2.09	2.04
A2.	2.54	2.54	2.33	2.36
A3.	2.72	2.81	2.62	2.68
A4.	2.05	2.16	1.66	1.85
A5.	2.93	2.96	2.72	2.73
A6.	3.46	3.46	3.36	3.32
A7.	2.86	2.81	2.58	2.61
A8.	3.28	3.29	3.25	3.27
A9.	2.96	3.00	2.77	2.77
A10.	2.64	2.71	2.46	2.47
A11.	2.73	2.59	2.43	2.35
A12.	2.33	2.28	1.89	1.87
A13.	2.49	2.51	2.12	2.23
A14.	1.89	2.40	1.71	2.10
A15.	1.48	1.72	1.28	1.45

	B06 定期的な小テストやレポートが課される授業			
	履修したかった		履修したくなかった	
	全体	1年生のみ	全体	1年生のみ
A1.	2.27	2.26	2.08	2.03
A2.	2.49	2.56	2.37	2.36
A3.	2.72	2.86	2.62	2.66
A4.	1.93	2.04	1.77	1.93
A5.	2.90	2.94	2.77	2.77
A6.	3.47	3.46	3.36	3.32

A7.	2.74	2.72	2.67	2.66
A8.	3.30	3.31	3.24	3.26
A9.	2.90	2.90	2.82	2.83
A10.	2.59	2.53	2.51	2.59
A11.	2.63	2.62	2.52	2.39
A12.	2.21	2.19	2.00	1.95
A13.	2.42	2.49	2.20	2.27
A14.	1.92	2.45	1.73	2.13
A15.	1.50	1.71	1.30	1.49

B07 学生が自分の考えや研究を発表する授業

	履修したかった		履修したくなかった	
	全体	1年生のみ	全体	1年生のみ
A1.	2.37	2.40	2.02	1.98
A2.	2.68	2.80	2.26	2.26
A3.	2.80	2.95	2.59	2.64
A4.	2.05	2.19	1.71	1.87
A5.	2.92	2.99	2.75	2.74
A6.	3.39	3.25	3.42	3.41
A7.	2.88	2.90	2.58	2.58
A8.	3.28	3.27	3.25	3.28
A9.	3.08	3.07	2.72	2.77
A10.	2.69	2.78	2.44	2.46
A11.	2.77	2.66	2.44	2.37
A12.	2.30	2.24	1.94	1.93
A13.	2.50	2.52	2.17	2.26
A14.	1.87	2.42	1.76	2.15
A15.	1.48	1.74	1.30	1.47

B08 授業中に学生同士が議論をする授業

	履修したかった		履修したくなかった	
	全体	1年生のみ	全体	1年生のみ
A1.	2.34	2.34	1.95	1.84
A2.	2.61	2.65	2.22	2.19
A3.	2.83	2.91	2.52	2.55
A4.	1.97	2.11	1.70	1.81
A5.	2.88	2.92	2.75	2.73
A6.	3.39	3.33	3.41	3.41
A7.	2.80	2.84	2.58	2.51
A8.	3.29	3.27	3.23	3.29
A9.	3.04	3.02	2.68	2.68
A10.	2.69	2.71	2.40	2.42
A11.	2.71	2.58	2.42	2.32
A12.	2.25	2.16	1.91	1.87
A13.	2.45	2.50	2.13	2.17
A14.	1.86	2.33	1.73	2.13
A15.	1.45	1.66	1.28	1.45

B09 授業の進め方に学生の意見が取り入れられる授業

	履修したかった		履修したくなかった	
	全体	1年生のみ	全体	1年生のみ
A1.	2.21	2.16	1.91	1.82
A2.	2.46	2.46	2.27	2.30
A3.	2.71	2.75	2.54	2.69
A4.	1.84	1.98	1.77	1.90
A5.	2.84	2.84	2.69	2.76
A6.	3.42	3.38	3.36	3.34
A7.	2.72	2.71	2.56	2.50

A8.	3.29	3.29	3.18	3.22
A9.	2.91	2.89	2.66	2.71
A10.	2.58	2.61	2.37	2.25
A11.	2.59	2.50	2.43	2.22
A12.	2.13	2.09	1.91	1.79
A13.	2.33	2.38	2.13	2.13
A14.	1.85	2.28	1.62	2.07
A15.	1.40	1.58	1.24	1.42

B10 出席することが重視される授業

	履修したかった		履修したくなかった	
	全体	1年生のみ	全体	1年生のみ
A1.	2.16	2.14	2.15	2.00
A2.	2.42	2.48	2.44	2.30
A3.	2.67	2.76	2.66	2.68
A4.	1.85	2.00	1.81	1.86
A5.	2.85	2.86	2.78	2.74
A6.	3.46	3.42	3.31	3.28
A7.	2.71	2.77	2.69	2.48
A8.	3.23	3.24	3.31	3.31
A9.	2.84	2.85	2.89	2.80
A10.	2.59	2.60	2.45	2.48
A11.	2.60	2.50	2.51	2.36
A12.	2.12	2.10	2.04	1.87
A13.	2.35	2.38	2.21	2.24
A14.	1.86	2.32	1.70	2.05
A15.	1.37	1.52	1.39	1.64

B11 TAなどの授業補助者から補助を受ける授業

	履修したかった		履修したくなかった	
	全体	1年生のみ	全体	1年生のみ
A1.	2.18	2.09	2.10	2.11
A2.	2.45	2.43	2.40	2.44
A3.	2.73	2.79	2.58	2.65
A4.	1.89	2.01	1.77	1.94
A5.	2.85	2.84	2.80	2.80
A6.	3.44	3.40	3.36	3.35
A7.	2.77	2.77	2.64	2.59
A8.	3.27	3.30	3.27	3.25
A9.	2.92	2.95	2.76	2.70
A10.	2.64	2.67	2.39	2.39
A11.	2.54	2.44	2.58	2.52
A12.	2.12	2.07	2.06	2.06
A13.	2.29	2.32	2.33	2.43
A14.	1.95	2.39	1.60	2.03
A15.	1.40	1.55	1.35	1.60

B12 語学以外の授業で、外国語で行われる授業

	履修したかった		履修したくなかった	
	全体	1年生のみ	全体	1年生のみ
A1.	2.42	2.42	2.06	1.99
A2.	2.59	2.64	2.36	2.36
A3.	2.81	2.92	2.62	2.68
A4.	2.04	2.05	1.77	1.95
A5.	2.93	2.94	2.78	2.80
A6.	3.52	3.45	3.37	3.36
A7.	2.85	2.84	2.63	2.62
A8.	3.35	3.46	3.23	3.23

A9.	3.12	3.13	2.75	2.77
A10.	2.80	2.90	2.45	2.47
A11.	2.70	2.56	2.50	2.40
A12.	2.32	2.32	2.00	1.94
A13.	2.51	2.52	2.19	2.27
A14.	1.99	2.43	1.73	2.19
A15.	1.54	1.73	1.31	1.52

全体的に学修経験の頻度は各科目【履修したかった】と答える群の方が高い傾向がある。これは単に、経験それ自体が動機づけの強さと結びつくものであり、いかなる授業の形態であっても積極的に受講したいといった希望を学生が示していることを意味するものである。しかし、こうした傾向に当てはまらない結果もいくつか見られている。例えば、「B07 学生が自分の考えや研究を発表する授業」「B08 授業中に学生同士が議論をする授業」では、「A6 授業の予習や復習、宿題をした」の頻度は、「履修を希望しない」と回答した学生の群の方が高くなることが示された。これは、授業内で自らの意見やアイデアを授業内で発表したり議論したりすること自体が、高校までのルーティンとしての習慣とはそぐわないことを示唆している。また「B10 出席することが重視される授業」においては、「A2 自分の意見を論理的に主張した」「A8 自分の失敗から学んだ」「A9 困難なことにあえて挑戦した」「A15 オンラインでの双方向型（ディスカッションなど）の授業に参加した」の頻度は、「履修を希望しない」と回答した学生の群の方が高くなることが示された。この項目は、能動的というよりは受動的な授業参加の形態を想定したものとなるが、そうした授業形態については積極的な態度を必要としない。このように、高校までに培ってきた態度がそぐわない、もしくは必要とされない授業については学生自身が忌避感を示していることが予想される。

こうした傾向については、高校卒業時点から比較的時間が経過していない1年生のみを抽出したデータにおいてもある程度共通して見られる傾向となっている。一方で項目によっては1年生のみを抽出したデータでは全体データと挙動が異なるものも見られる。例えば「B11 TAなどの授業補助者から補助を受ける授業」は、1年生のみのデータからは全体のデータに比べて「履修を希望しない」と考える傾向性がいくつかの学修習

慣、特に自律的に学修しようとする項目と関連づけられていることが見て取れる。高校までにおいては、授業内において生徒と教員の関係性である程度完結されるものが多く、TA等のように教員と学生間を取り持つ形で第三者的に授業運営に関わるメンバーは想定されていない。そのため大学に入学したばかりの1年生にとっては、なじみのない存在、もしくは通常の授業運営内に異質的に関わる存在であり自らの学修とは無関係な存在として捉えられている可能性もある。一方で、調査実施時点の1年生は、高校3年次においてオンラインでの授業運営がベースとなっていることが多い。この中には、オンデマンド型のような時間や場所を選ばない自学自習形式のものや、オンラインというプラットフォーム上多数で集まることはあっても、学習するための環境的には基本的に受講のためのデバイス対人間といった特殊な状況にある。そのため、TA等の第三者的な存在が個人の学習に介入する状況に慣れていないことも想定されるだろう。

同様に高校3年次の学修経験（A）と、特に入学してからの学修状況における学修に関する活動（C）との関係について、それぞれの選択肢（4: ひんぱんにした 3: ときどきした 2: あまりしなかった 1: まったくしなかった）を数値データとして扱った上で、両者間の相関係数を表4（全体データ）および表5（1年生のみのデータ）に示した。全体として中程度（ $r = |0.4|$ ）以上の相関は見られず、高校3年次までの経験と大学での学修に関する行動とに関係性があるとは言いにくい。これは、例えば大学から出される課題により必要とされる具体的な行動や大学内で選択肢として可能な行動それ自体が、大学という環境内特有のものであり、高校までの経験それ自体と独立していることを意味する。大学での学習活動に関する項目自体が、実際に行動を行ったかどうかを基準に尋ねているものであることも踏まえると、高校3年次までの学習経験から学生自身の内的状況を予測するのであれば、行動の前段階として各種行動に対する心理的な障壁の高さなどの観点を検討した方が良い可能性もある。

なお現状において弱い相関（ $r = |0.2|$ ）のレベルで議論するのであれば、部分的に議論できる余地もあると思われる。特に1年生のみのデータに注目するの

表4 高校3年次の学修経験の傾向と、大学に入学してからの学修状況：学修に関する活動（相関係数）：
全学年データ ※絶対値0.2以上のものについて網掛け

	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	C9	C10	C11	C12	C13
A01	0.123	0.055	0.064	0.042	0.041	0.097	0.104	-0.066	0.175	0.160	0.109	0.121	0.084
A02	0.139	0.103	0.033	0.096	0.023	0.149	0.189	-0.085	0.096	0.136	0.163	0.130	0.073
A03	0.076	0.086	0.045	0.139	-0.018	0.169	0.122	-0.008	0.109	0.115	0.082	0.113	0.079
A04	0.143	0.160	0.039	0.127	-0.025	0.111	0.128	-0.090	0.120	0.097	0.087	0.098	0.132
A05	0.096	0.102	0.017	0.137	0.033	0.056	0.150	-0.077	0.082	0.091	0.087	0.084	0.022
A06	0.154	0.028	0.097	0.029	-0.202	0.083	-0.042	-0.076	0.033	0.069	0.063	0.057	0.010
A07	0.166	0.145	0.003	0.116	-0.005	0.103	0.183	-0.072	0.088	0.086	0.120	0.068	0.002
A08	0.028	0.073	0.047	0.116	-0.050	0.111	0.085	0.017	0.038	0.058	0.041	0.067	0.020
A09	0.164	0.138	0.113	0.182	-0.041	0.179	0.131	-0.055	0.139	0.144	0.171	0.168	0.080
A10	0.143	0.131	0.078	0.112	-0.012	0.205	0.107	-0.053	0.173	0.168	0.151	0.201	0.108
A11	0.218	0.165	0.073	0.052	-0.032	0.081	0.196	-0.043	0.138	0.153	0.147	0.133	-0.015
A12	0.295	0.194	0.154	0.107	0.001	0.107	0.191	-0.109	0.211	0.259	0.165	0.165	0.077
A13	0.198	0.195	0.078	0.143	-0.111	0.113	0.158	-0.112	0.131	0.203	0.147	0.135	0.076
A14	0.014	0.040	0.052	0.055	0.022	0.175	0.105	0.028	0.109	0.035	-0.006	0.054	0.206
A15	0.067	0.128	0.002	0.046	0.025	0.147	0.175	0.001	0.184	0.118	0.095	0.131	0.172

N = 973 * *欠損値を含むサンプルは削除

表5 高校3年次の学修経験の傾向と、大学に入学してからの学修状況：学修に関する活動（相関係数）：
1年生のみのデータ ※絶対値0.2以上のものについて網掛け

	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	C9	C10	C11	C12	C13
A01	0.158	0.099	0.029	0.002	-0.022	0.099	0.087	-0.078	0.209	0.199	0.163	0.174	0.018
A02	0.162	0.142	-0.034	0.069	0.009	0.123	0.267	-0.113	0.083	0.105	0.192	0.136	0.067
A03	0.118	0.076	0.004	0.152	-0.028	0.234	0.162	-0.032	0.117	0.106	0.070	0.145	0.044
A04	0.215	0.203	0.012	0.157	-0.026	0.188	0.196	-0.039	0.072	0.042	0.115	0.126	0.116
A05	0.154	0.108	0.073	0.166	0.037	0.150	0.264	-0.098	0.033	0.061	0.156	0.085	-0.005
A06	0.101	0.035	0.051	0.009	-0.225	0.101	-0.034	-0.141	0.018	-0.006	-0.046	0.062	-0.003
A07	0.160	0.144	0.029	0.100	-0.050	0.136	0.190	-0.093	0.042	0.026	0.092	0.045	0.040
A08	0.087	0.104	0.034	0.116	-0.105	0.074	0.066	-0.051	0.016	0.013	-0.007	0.055	0.010
A09	0.191	0.149	0.080	0.151	-0.098	0.139	0.099	-0.117	0.087	0.105	0.113	0.139	0.050
A10	0.204	0.190	0.110	0.132	-0.020	0.235	0.113	-0.043	0.149	0.102	0.169	0.175	0.093
A11	0.164	0.120	0.111	0.014	-0.042	0.127	0.193	-0.020	0.067	0.078	0.090	0.108	-0.108
A12	0.303	0.152	0.113	0.069	-0.004	0.082	0.176	-0.067	0.144	0.213	0.152	0.179	-0.017
A13	0.200	0.172	0.047	0.099	-0.086	0.111	0.192	-0.128	0.121	0.134	0.168	0.175	0.046
A14	0.104	0.165	0.016	0.108	-0.018	0.222	0.084	0.038	0.126	0.149	0.058	0.111	0.165
A15	0.116	0.181	-0.059	0.063	0.001	0.191	0.213	0.048	0.170	0.250	0.077	0.121	0.108

N = 376 * *欠損値を含むサンプルは削除

であれば、「C1 授業課題のために図書館の紙媒体の資料を利用した（閲覧、貸出、取り寄せなど）」において、高校での経験4つとの関連がみられる。具体的には「A4 科学的研究の記事や論文を読んだ」「A10 自分が取り組んだ課題について教師に意見を求めた」「A12 学校や地域の図書館を利用し、調べ物をした」「A13 調べたことを文章にまとめた」など、高校での資料探索の経験やそれらのまとめといった経験が大学においても継続していると考えられることができる。これら両者の関連性について、引き続き注目し検討していくことが重要だろう。

4. まとめ

以上の内容から、以下のようにまとめることが可能である。まず学生にとってこれまでの経験上、関わりを見出しにくい仕組みや内容を伴う授業形態を避ける傾向の可能性が示された。こうした傾向は、学年によって異なり、特に入学直後の1年生においては、大学での学びに慣れる過程にあることから、特異的な反応を示している可能性がある点にも注意である。一方で、経験それ自体は、学生にとってあくまでも「過去の経験」であり、現在の時点で求められたり、起こしたりする必要のある行動とは、切り離して考える必要があ

る。最終的な学修成果を学生がどのようなプロセスを経て産出するかを考えるのであれば、過去の経験は大学の授業を考慮する上でのきっかけの1つであり、それ自体が意味のある学習行動とつながることは、本報告の結果からは考えにくいだろう。勿論選択した科目を学習する過程において、何らかの困難や逆にスムーズさを学生が感じることもありうるため、そうした処理や認識の流暢性自体は、学生の主観的な大学に対する評価とも関わりうる可能性もある。こうしたことを考えるのであれば、単純に「高校と大学の接続」を統一的に議論するよりも、両者間で困難な部分は原理的に接続不可能であるのか、もしくは両者間で知見や状況を共有することで解決可能な問題であるのかを切り分けることや、また両者間でスムーズな接続として表れている問題は積極的に評価すべきであるといった評価など、各種部分を整理していくことが今後重要となってくるだろう。

一方で、本調査自体は、大学とそれに関わりうる学修全般について広く尋ねる質問項目により構成されているものの、全体的に能動的学修について尋ねるような項目が多いため、そうではない経験や授業形態等も含めて広く検討できる状態になっているとはいえない。また、明確に心的態度や行動等を定義した上で、質問項目を構成しているわけではないため、あくまでも既存のデータから仮に解釈するのであればといった探索的側面が強いものである。特に、高大接続の文脈において、両者間の食い違いや共通性を評価する上では、ある程度ばらけつつも広い意味での経験に関する項目を担保しつつ、厳格な操作的定義に基づく項目の作成を行っていく必要があるだろう。

引用文献

- Duncan, T. E., Duncan, S. C., Strycker, L. A., Li, F., & Alpert, A. (1999). *An introduction to latent variable growth curve modeling*. New Jersey: Lawrence Erlbaum Associates.
- von Stumm, S., Hell, B., & Chamorro-Premuzic, T. (2011). The Hungry Mind: Intellectual Curiosity Is the Third Pillar of Academic Performance. *Perspectives on Psychological Science*, 6(6), 574-588.
- 佐々木俊一郎・山根承子・マルデワグレグ・布施匡章・藤本和則 (2022) 大学生の学業成績の規定因：パネルデータ

- による分析. *日本テスト学会誌*, 18 (1), 57-71.
- 平知宏・大久保敦 (2018) 大学での学業成績に与える高校評定、学びの意識の影響：潜在成長曲線モデルを用いた検討. *大阪市立大学『大学教育』*, 16 (1), 16-25.
- 中村裕行 (2015) 『総合的な学習の時間』の理想と現実. *日本私学教育研究所紀要*, 51, 61-64.
- 西垣順子 (2008) 初年次教育の「質」に関する調査報告：学生による質評価と成績評価、自主学習の関連. *大阪市立大学『大学教育』*, 6, 1-8
- 西垣順子 (2019) 学士課程学生調査からみる本学学生の学修：2016年度上級生調査を中心に. *大阪市立大学『大学教育』*, 16 (2), 71-76
- 畑野快・溝上慎一 (2013) 大学生の主體的な授業態度と学習時間に基づく学生タイプの検討. *日本教育工学会論文誌*, 37, 13-21.
- 吉村宰・南部広孝 (2008) AO入試による入学者の入学後成績と選抜方法：選抜方法改善の観点から. *大学入試研究ジャーナル*, 18, 187-192.